

九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

訪日中国人旅行者の消費行動に関する研究

博士前期課程

経済・ビジネス研究科 現代ビジネス専攻

于 泳涛

主査 大方優子
副査 安熙卓
土井一生

研究の背景

グローバル化の発展に伴い、訪日観光市場も世界的に広がっている。なかでも、訪日中国人旅行者数は2007年から2019年まで約10倍に増加しており、日本の観光市場においては中国人旅行者への依存が高まってきた。訪日中国人旅行者は、数だけではなく、旅行消費総額も第一位となっており、日本の観光産業に大きな影響をもたらしてきたといえる。しかし2016年以降、訪日中国人旅行者の数は増加傾向を示す一方、一人当たりの消費額の減少が指摘されるようになっており、今後の訪日中国人旅行者の消費動向に注目が集まっている。

研究の目的

本研究では、訪日中国人旅行者の消費行動を取り上げ、その現状と傾向について分析し、訪日中国人旅行者の消費を促進するための今後の方策について検討することを目的とする。

研究の概要1

第一章で研究の背景と目的、方法を述べたのち、第二章では、訪日中国人旅行者の概要を整理した。具体的には、訪日外国人旅行者市場全体、および訪日中国人旅行者数の推移と、その背景にある日本政府の政策について把握した。

第三章では、訪日中国人旅行者の消費行動について分析を行った。まず、彼らの訪日旅行全般の特徴について、その旅行形態や目的、訪問回数、消費額の推移など統計データをもとに把握した。そのうえで、訪日中国人旅行者の消費行動を支える要因について、文献を参照しながら考察した。

研究の概要2

第四章では、訪日中国人旅行者の消費行動の変化について論じている。第三章までの分析より、中国人旅行者の消費行動がモノ消費からコト消費へと変化していることを指摘しているが、本章ではその変化の背景について述べたうえで、訪日観光におけるコト消費の事例として、福岡県宗像市におけるサイクルツーリズムをとりあげ、その取り組みについて概要を明らかにした。

第五章では、本研究の結論として、今後、訪日中国人旅行者の消費を促進するためには、モノ消費に代わるコト消費の推進が求められ、そのためには、地域ならではの観光コト消費を検討することが必要であると述べた。

成果・まとめ

訪日中国人旅行者は、政治問題や自然災害の影響を受けながらも、全体として増加し続けており、特に近年、海外旅行に関する法律上の緩和と、経済発展による所得の向上によって、爆発的な増加を見せた。2021年1月現在、新型コロナウイルスの影響により世界的に旅行者の動きは止まっているものの、今後状況が改善すれば、訪日中国人旅行者の数はさらに拡大していくと思われる。

爆買い行動が縮小し、訪日中国人旅行者一人当たりの消費額は低下する傾向にある中、買い物を中心としたモノ消費からコト消費へのシフトが指摘されている。地域における体験をコト消費として中国人旅行者に提供することができれば、今後、訪日中国人誘致の更なる促進につながり、日本の地方都市の活性化にもつながるだろう。

指導教員コメント

この研究に取り組んでいるなかで、新型コロナウイルスの世界的流行により観光をとりまく環境が激変し、当初の計画通り研究を進めることができなかつたのは残念だったものの、文献や資料を丁寧に分析し、一定の成果を得ることができた。

大方優子